

第1回 JR宇都宮駅西口駅前広場整備検討懇談会

日時：令和8年7月9日（木）15時00分～

場所：宇都宮市役所 14階 14大会議室

次 第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 「JR宇都宮駅西口駅前広場整備検討懇談会」の設置について
 - (1) 設置要綱等について
 - (2) 委員の紹介
 - (3) 会長・副会長の選出について
- 4 会議の公開について
- 5 議 題
 - JR宇都宮駅西口駅前広場の整備について
 - (1) 空間デザインの検討状況について（公開）資料1
 - (2) 駅前広場の整備概要について（非公開）資料2
- 6 そ の 他
- 7 閉 会

〔配布資料〕

- ・ 次第・名簿
- ・ JR宇都宮駅西口駅前広場整備検討懇談会設置要綱
- ・ 資料1 空間デザインの検討状況について
- ・ 資料2 駅前広場の整備概要について

第1回 JR宇都宮駅西口駅前広場整備検討懇談会 出席者名簿

(敬称略)

分野	所属/職名	氏名	出欠	代理者氏名
学識経験者	早稲田大学 教授	森本 章倫	出	
	東京大学大学院 教授	中井 祐	出	
	宇都宮大学 准教授	長田 哲平	欠	
関係団体	まちづくり関係団体 ゼビオホールディングス株式会社 副社長執行役員	中村 考昭	代理	二階堂 洋
	まちづくり関係団体 株式会社エスコン 開発事業本部 首都圏総合開発部 PM部マネージャー	庄司 元康	出	
	まちづくり関係団体 宮の橋・田川活性化プロジェクト実行委員会 委員長	村上 龍也	出	
	まちづくり関係団体 宇都宮駅西口中央地区 代表	坂本 守弥	代理	坂本 明
	まちづくり関係団体 宇都宮駅西口南地区市街地再開発組合 理事長	巴山 勝雄	出	
	まちづくり関係団体 宇都宮駅西口大通り南地区市街地再開発組合 副理事長	小林 毅	出	
	まちづくり関係団体 築瀬地区連合自治会 (川向一丁目自治会 会長)	川村 壽文	出	
	まちづくり関係団体 錦地区連合自治会 会長	増田 良二	出	
	社会福祉法人 宇都宮市社会福祉協議会 (ボランティアセンター 所長)	中山 淳子	出	
	特定非営利活動法人 宇都宮まちづくり推進機構 事務局長	鈴木 信夫	出	
	宇都宮商工会議所 常務理事	小関 裕之	出	
	独立行政法人 都市再生機構 東日本都市再生本部 まちづくり支援部 担当部長	中對 卓司	出	
交通事業者	東日本旅客鉄道株式会社 栃木事業本部 事業推進部 ユニット長	神保 成究	出	
	関東自動車株式会社 専務執行役員	石原 玲一	出	
	JR宇都宮駅西口構内タクシー組合 (泉タクシー株式会社 代表取締役社長)	荒井 勝	出	
	宇都宮ライトレール株式会社 代表取締役社長	酒井 典久	出	
行政機関	栃木県 県土整備部交通政策課 課長	橋本 達雄	代理	田中 祐也
	栃木県 県土整備部都市政策課 課長	本間 毅	出	
	栃木県警察本部 交通部交通規制課 課長	角山 弘	代理	村上 晃規

「JR宇都宮駅西口駅前広場整備検討懇談会」設置要綱

(設置)

第1条「JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画」の推進にあたり、駅前広場整備の着工に向けて、詳細な設計を進めるため、学識経験者や関係団体、交通事業者などから意見を聴取することを目的とし、「JR宇都宮駅西口駅前広場整備検討懇談会（以下「懇談会」という。）」を設置する。

(組織)

第2条 懇談会の委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 関係機関及び関係団体の代表者等
- (3) その他市長が必要と認める者

2 懇談会委員の任期は、市長が委嘱した日から所掌事務が終了する日までとする。

3 関係機関及び関係団体の代表者等は、委嘱されたときにおける当該職又は身分を失ったときは、その職を失う。

4 市長は、懇談会の委員が次の各号のいずれかに該当するときは、解嘱することができる。

- (1) やむを得ない理由により解嘱を申し出たとき
- (2) その他解嘱することにつき相当な理由があると市長が認める場合

(懇談会)

第3条 懇談会の所掌事務は、次のとおりとする。

JR宇都宮駅西口駅前広場の整備に関すること

2 懇談会に会長及び副会長それぞれ1人を置き、懇談会の委員のうちから互選によってこれを定める。

3 懇談会は、会長が招集し、会議を主宰する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

5 懇談会の委員が会議に出席できない場合は、代理人を出席させることができ、この場合は、代理人の行為を委員の行為とみなす。

6 懇談会の会議は、原則として公開とする。ただし、意思形成過程における内容については、非公開とすることができる。

附 則

この要領は、令和8年 7月 9日から適用する。

「ＪＲ宇都宮駅西口駅前広場整備検討懇談会」 名簿

(敬称略)

区分	分野	所属/職名	氏名
第２条 １項１号	学識経験者	早稲田大学 教授	森本 章倫
		東京大学大学院 教授	中井 祐
		宇都宮大学 准教授	長田 哲平
第２条 １項２号	関係団体	まちづくり関係団体 ゼビオホールディングス株式会社 副社長執行役員	中村 考昭
		まちづくり関係団体 株式会社エスコン 開発事業本部 首都圏総合開発部 ＰＭ部マネージャー	庄司 元康
		まちづくり関係団体 宮の橋・田川活性化プロジェクト実行委員会 委員長	村上 龍也
		まちづくり関係団体 宇都宮駅西口中央地区 代表	坂本 守弥
		まちづくり関係団体 宇都宮駅西口南地区市街地再開発組合 理事長	巴山 勝雄
		まちづくり関係団体 宇都宮駅西口大通り南地区市街地再開発組合 副理事長	小林 毅
		まちづくり関係団体 築瀬地区連合自治会（川向一丁目自治会 会長）	川村 壽文
		まちづくり関係団体 錦地区連合自治会 会長	増田 良二
		社会福祉法人 宇都宮市社会福祉協議会 （ボランティアセンター 所長）	中山 淳子
		特定非営利活動法人 宇都宮まちづくり推進機構 事務局長	鈴木 信夫
		宇都宮商工会議所 常務理事	小関 裕之
		独立行政法人 都市再生機構 東日本都市再生本部 まちづくり支援部 担当部長	中對 卓司
	交通事業者	東日本旅客鉄道株式会社 栃木事業本部 事業推進部 ユニット長	神保 成究
		関東自動車株式会社 専務執行役員	石原 玲一
		ＪＲ宇都宮駅西口構内タクシー組合 （泉タクシー株式会社 代表取締役社長）	荒井 勝
		宇都宮ライトレール株式会社 代表取締役社長	酒井 典久
	行政機関	栃木県 県土整備部交通政策課 課長	橋本 達雄
		栃木県 県土整備部都市政策課 課長	本間 毅
		栃木県警察本部 交通部交通規制課 課長	角山 弘

第 1 回 J R 宇都宮駅西口駅前広場整備検討懇談会

J R 宇都宮駅西口周辺地区整備について

【趣 旨】

J R 宇都宮駅西口駅前広場の整備についてご意見を伺うもの

令和 8 年 7 月 9 日 (木)

宇都宮市 都市整備部 市街地整備課

1 空間デザインの検討状況について

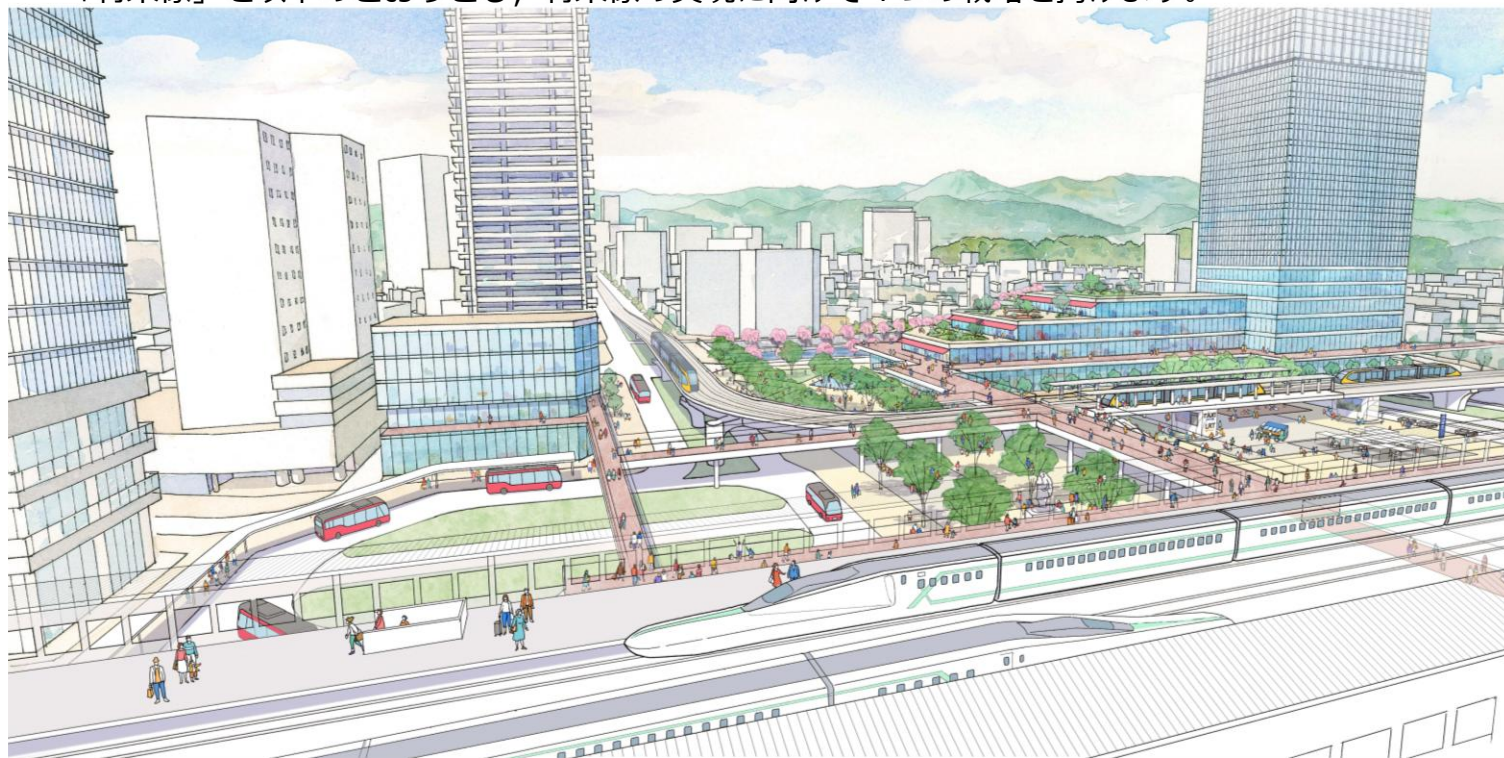
2 駅前広場の整備概要について

- ・ J R 宇都宮駅西口周辺地区整備については、駅前広場の再整備や広場周辺の民間街区の再編に官民一体で取り組む方針などを示す「**J R 宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画**」を令和7年10月に策定

J R 宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画 ～第3章～将来像

県都の玄関口にふさわしい風格とにぎわい溢れる 「交通」と「まち・水・緑」が調和した人中心の居心地の良い空間

- 駅前広場だけでなく、周辺の民間街区の再整備も含めた将来像を共有するため、将来像は、30年後の2050年頃とします。
- 「空間」「交通」「景観」「社会状況」の4つの視点から整理した課題を解消し、県都の玄関口にふさわしい風格を備えた駅前空間を創出していくための「将来像」を以下のとおりとし、将来像の実現に向けて4つの戦略を掲げます。



▲ JR宇都宮駅西口周辺地区の将来イメージ（令和6年10月作成）

エリア全体の取組方針

空間 人中心の新たな「駅まち空間」

- 駅・駅前広場・周辺街区が一体となった人中心のウォークラブルな空間を形成
- 市民や来街者にとって居心地の良い、憩いや交流の場所となる空間形成
- にぎわいと魅力向上につながる都市機能の導入と効果的な配置

交通 誰もが安全・安心に移動でき、多様なモビリティが連携した交通空間

- 誰にとってもスムーズな乗継利便性の高い交通空間の形成
- 回遊性が高く、安全安心な歩行空間の形成
- デジタル技術の積極的な活用と需要の変化に応じた柔軟な対応

景観 県都の玄関口にふさわしい潤いと風格のある景観の形成

- 水と緑が感じられる駅前にふさわしい景観の形成
- 宇都宮の文化を感じられる景観の形成
- 誰もが快適に感じられる景観の形成

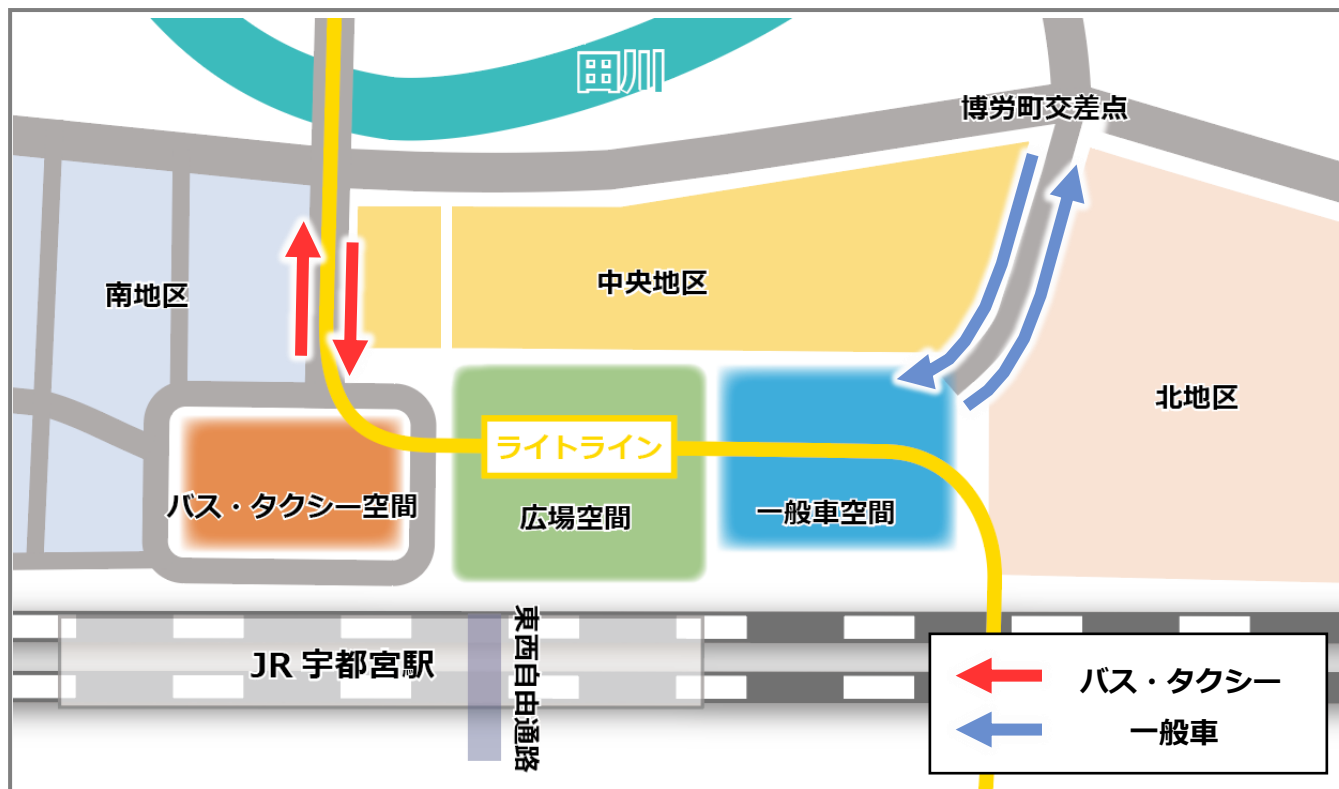
社会状況 社会変化に対応できる、人と環境にやさしいまちなか

- 誰一人取り残さないインクルーシブなまちづくり
- 脱炭素社会の実現に向けた取組
- 自然災害に強くしなやかな環境形成
- 空間の質を担保する仕組みづくり

J R 宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画 ～第5章～駅前広場の整備方針

○交通空間のアクセス路と空間配置図

- ウォーカブルな駅前空間の形成に向け、駅前広場への過度な自動車の流入抑制や歩行者と自動車の錯綜を解消することを基本に、バスやタクシー、駅への送迎用の一般車などの交通施設の効率的な配置や駅へのアクセス動線を分離していく
- 将来の自動運転技術の進展や交通需要の変化などにも対応しながら、さらに人中心の空間に転換できる可変性のある空間配置としていく



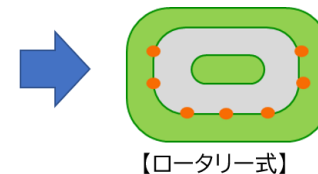
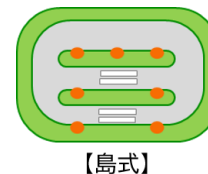
▲交通空間の再編イメージ

広場空間

- 東西軸を中心に駅前の顔となる空間を確保し、かつ乗継利便性向上のため、交通施設に隣接した駅前広場の中心に広場空間を配置します。

バス・タクシー空間

- バス・タクシーについては、駅西側の軸となる公共交通であることから、大通りの延長線上である駅前広場の南側に配置し、ライトラインとの接続性に配慮します。
- 空間の形状については、車両と歩行者動線の分離や、利用者の待ちスペースの効率的な確保など安全面を考慮し「ロータリー式」を基本とします。

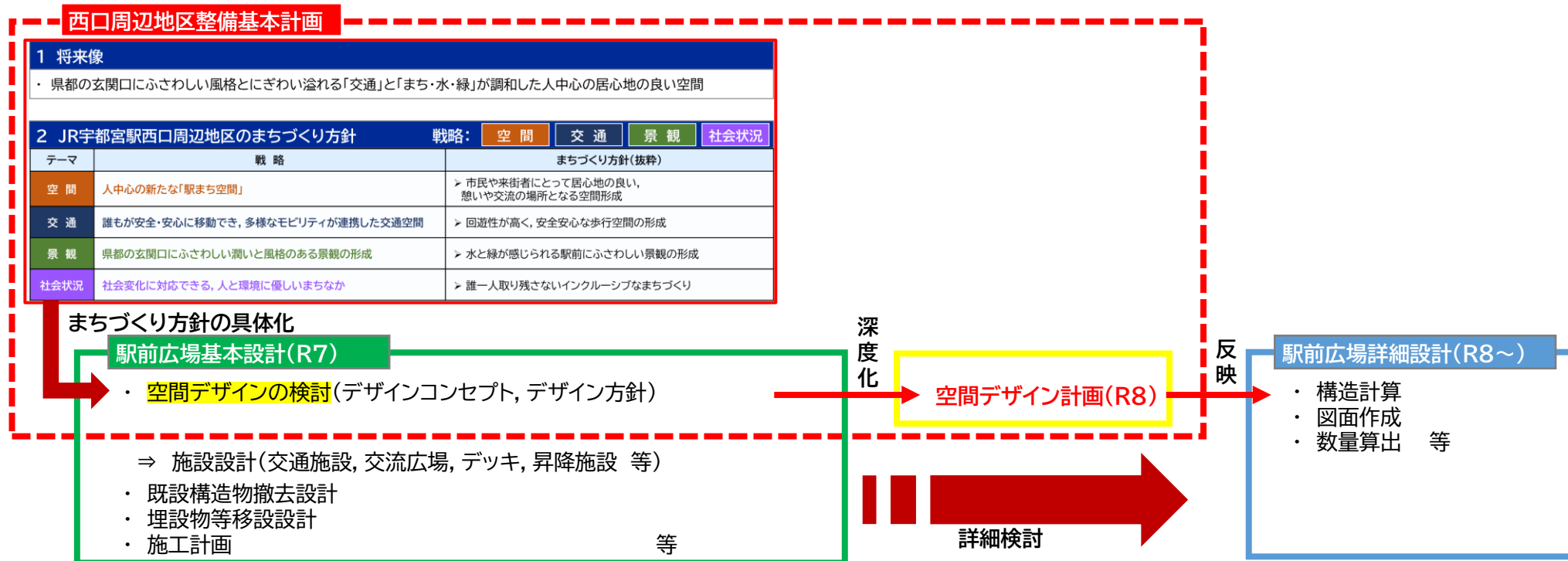


一般車空間

- 現在の駅前広場の使われ方を踏襲しつつ、公共交通と動線を分けるために駅前広場の北側に配置します。

- 整備基本計画を踏まえながら「基本設計」を実施(R7)。整備基本計画を補完し駅前広場の使い方や作り方を示す、空間デザインの検討を行った。
 - 今後、さらに検討を深度化し、駅前にふさわしい空間づくりに向けたデザインコンセプトやデザイン方針など「空間デザイン計画」を定める。
 - 「空間デザイン計画」の中で、停留場を含む駅前広場各施設の配置や形状、色や素材などの設えをとりまとめ、詳細設計など工事着手に向けた取り組みにつなげていく。
- ※ 空間デザインの検討にあたっては、駅前整備や都市デザインに精通する有識者から意見聴取を行いながら取り組む。

空間デザイン計画の位置づけ



1 空間デザインの検討状況について

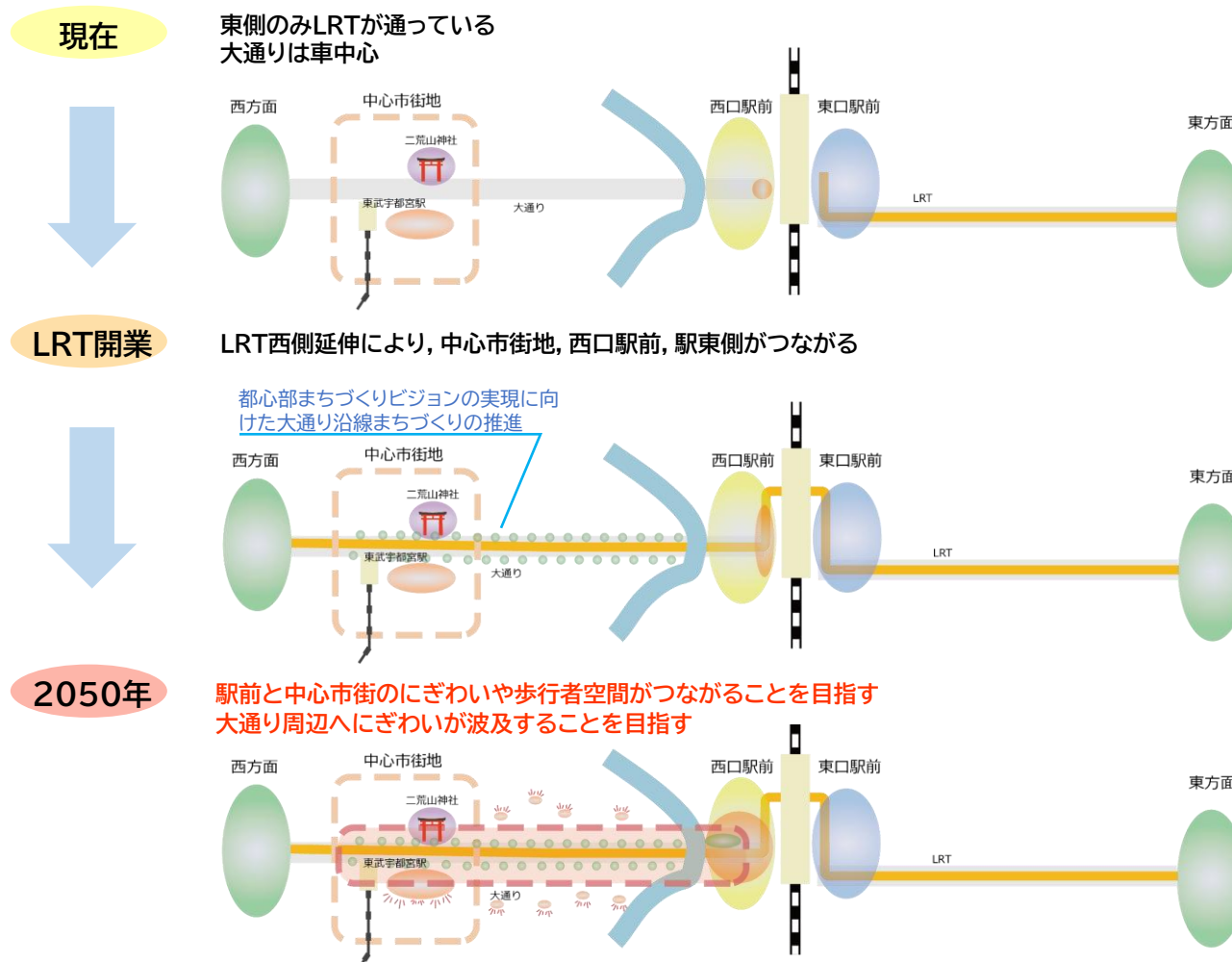
2 駅前広場の整備概要について

1 空間デザインの検討状況について

(1) 前提条件（将来像）

- 整備基本計画においては、2050年代の都市構造や目指す地区の将来像の実現に向けた2030年代(ライトライン開業時)の駅前広場の整備方針を定めている。

【都市構造】



【駅西口周辺地区】

車のための空間が大半



LRTと合わせた交通機能再編と人のための広場づくり



歩行・滞留空間を拡張し
駅と田川をつなぐ人中心の空間の創出



1 空間デザインの検討状況について

(2) 空間デザイン計画（デザインコンセプト素案）

- 新たな駅前広場の使い方や作り方を市民や事業者にわかりやすく発信するため、デザインコンセプトを定める

整備基本計画における駅西口周辺地区将来像

県都の玄関口にふさわしい風格とにぎわい溢れる「交通」と「まち・水・緑」が調和した人中心の居心地の良い空間

駅前広場整備に向けた視点を抽出

西口駅前広場の視点①

ライトラインと共に、まちとつながり、宇都宮の玄関口と感ずることのできる駅前広場

西口駅前広場の視点②

人中心の空間であり、まち・水・緑が相互に機能する駅前広場

デザインコンセプト

宇都宮駅西口のまちは、二荒山神社の門前町にはじまり、宿場町や城下町として発展してきた宇都宮の歴史と文化を受け継ぐ場所です。この場所に向かって新たにライトラインが延伸していくことで、新たなまちの姿が実現していきます。

-コンセプト-

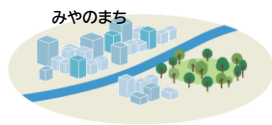
西口駅前広場では、歴史と文化の積層するみやのまちへのつながり、人が集い、自然を感じながら過ごす人のつながり、自然のつながりを重視し、“みやのまちにわ”をコンセプトとしました。

-「まちにわ」とは-

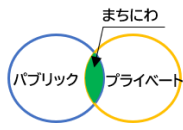
“まちにわ”は地上を中心としながら、まちに開いたパブリックな広場空間となり、個人が思い思いに使えるプライベートな庭のような空間となることを表現しています。

西口駅前広場は、単なる交通結節点ではなく、自然を感じながら、日常的に人が集う場所に、みやのまちに向かうライトラインが共存する新たな宇都宮を象徴する空間を目指します。

①みやのまち”につながる、人が集い自然を感じながら過ごす“にわ”
“みやのまちにわ”



②まちのなかのパブリックな広場であり、個人で使えるプライベートな庭のような空間でもある場所“まちにわ”



1 空間デザインの検討状況について

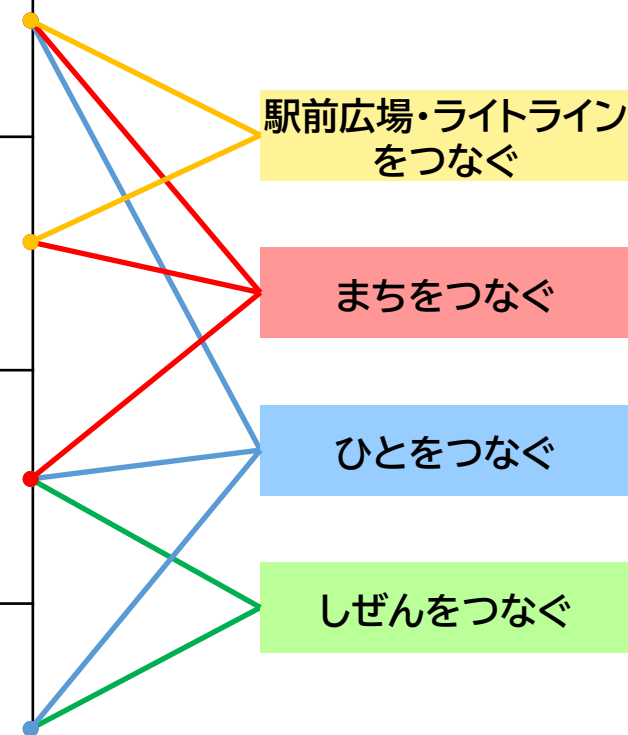
(2) 空間デザイン計画（デザイン方針素案）

- デザインコンセプトを踏まえながら基本計画に示すまちづくり方針をもとに、駅前広場整備における空間づくりの柱となるデザイン方針を整理

デザインコンセプト ライトラインと共にまち・ひと・しぜんをつなぐ駅前広場

整備基本計画における駅西口周辺地区のまちづくり方針

空間 人中心の新たな「駅まち空間」	- 駅・駅前広場・周辺街区が一体となった人中心のウォーカブルな空間を形成 - 市民や来街者にとって居心地の良い、憩いや交流の場所となる空間形成 - にぎわいと魅力向上につながる都市機能の導入と効果的な配置
交通 誰もが安全・安心に移動でき、多様なモビリティが連携した交通空間	- 誰にとってもスムーズな乗継利便性の高い交通空間の形成 - 回遊性が高く、安全安心な歩行空間の形成 - デジタル技術の積極的な活用と需要の変化に応じた柔軟な対応
景観 県都の玄関口にふさわしい潤いと風格のある景観の形成	- 水と緑が感じられる駅前にふさわしい景観の形成 - 宇都宮の文化を感じられる景観の形成 - 誰もが快適に感じられる景観の形成
社会状況 社会変化に対応できる、人と環境に優しいまちなか	- 誰一人取り残さないインクルーシブなまちづくり - 脱炭素社会の実現に向けた取組 - 自然災害に強くしなやかな環境形成 - 空間の質を担保する仕組みづくり



1 空間デザインの検討状況について

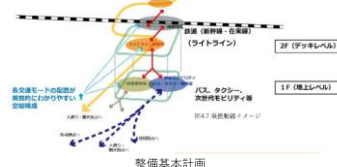
(2) 空間デザイン計画（デザイン方針素案）

ライトラインと共にまち・ひと・しぜんをつなぐ駅前広場 -みやのまちにわ-

方針1 駅前広場・ライトラインをつなぐ

1-1 交通施設がスムーズに利用可能な施設計画

- ・スムーズな乗り換え・まちへの動線の設定
- ・アンブレラフリー動線の設定
- ・バリアフリーな施設計画
- ・将来的に自動運転等にも対応できる施設計画



整備基本計画

1-2 ライトライン施設と一体となった空間づくり

- ・停留場を中心とした象徴的な駅前空間づくり
- ・停留場と駅の間乗り換えがしやすいデッキ
- ・停留場と地上の広場が行き来しやすい動線設定
- ・地上広場の魅力を高める停留場の計画



方針2 まちをつなぐ

2-1 ライトラインと共にまちへ誘う空間づくり

- ・大通り方面へ誘う地上の歩行者空間の連続性
- ・駅の東西を結び回遊を生み出す東西軸の形成



緑の基本計画

2-2 “みやのまち”を象徴する空間づくり

- ・宇都宮にきたことが実感できる駅前の視点場の整備
- ・ライトラインを活かした景観形成
- ・大谷石など歴史文化を活用した空間づくり
- ・男体山などへの視点場の整備



大谷石を活用した設えの例（ライトキューブ宇都宮）

方針3 ひとをつなぐ

3-1 日常的に滞在できる地上の広場空間

- ・デッキ・周辺施設から地上へ向かいとなる空間づくり
- ・乗り換えの合間に利用しやすい空間づくり
- ・隣接する商業施設利用者が利用しやすい空間づくり
- ・住民のニーズを踏まえた施設計画
- ・初めて訪れる人も使いやすい施設計画



3-2 イベントにも対応できる広場空間

- ・商業施設等のイベントと連携できる施設計画
- ・田川や宮の橋のイベントと連携できる施設計画
- ・東西で一体となったイベントのできる施設計画



方針4 しぜんをつなぐ

4-1 緑を生かした空間づくり

- ・宇都宮のまちの緑のネットワークの形成
- ・グリーンインフラを活用した、減災や暑熱対策
- ・緑陰のある快適な環境の提供



整備基本計画

4-2 田川を活かした空間づくり

- ・田川とつながる空間の形成
- ・田川での活動と連携した空間形成・施設計画

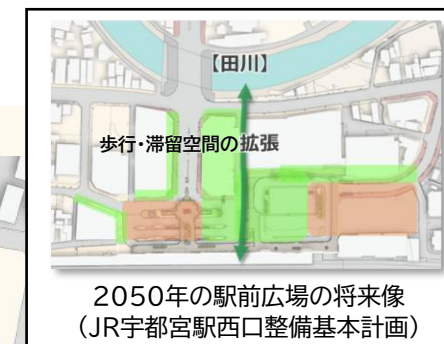
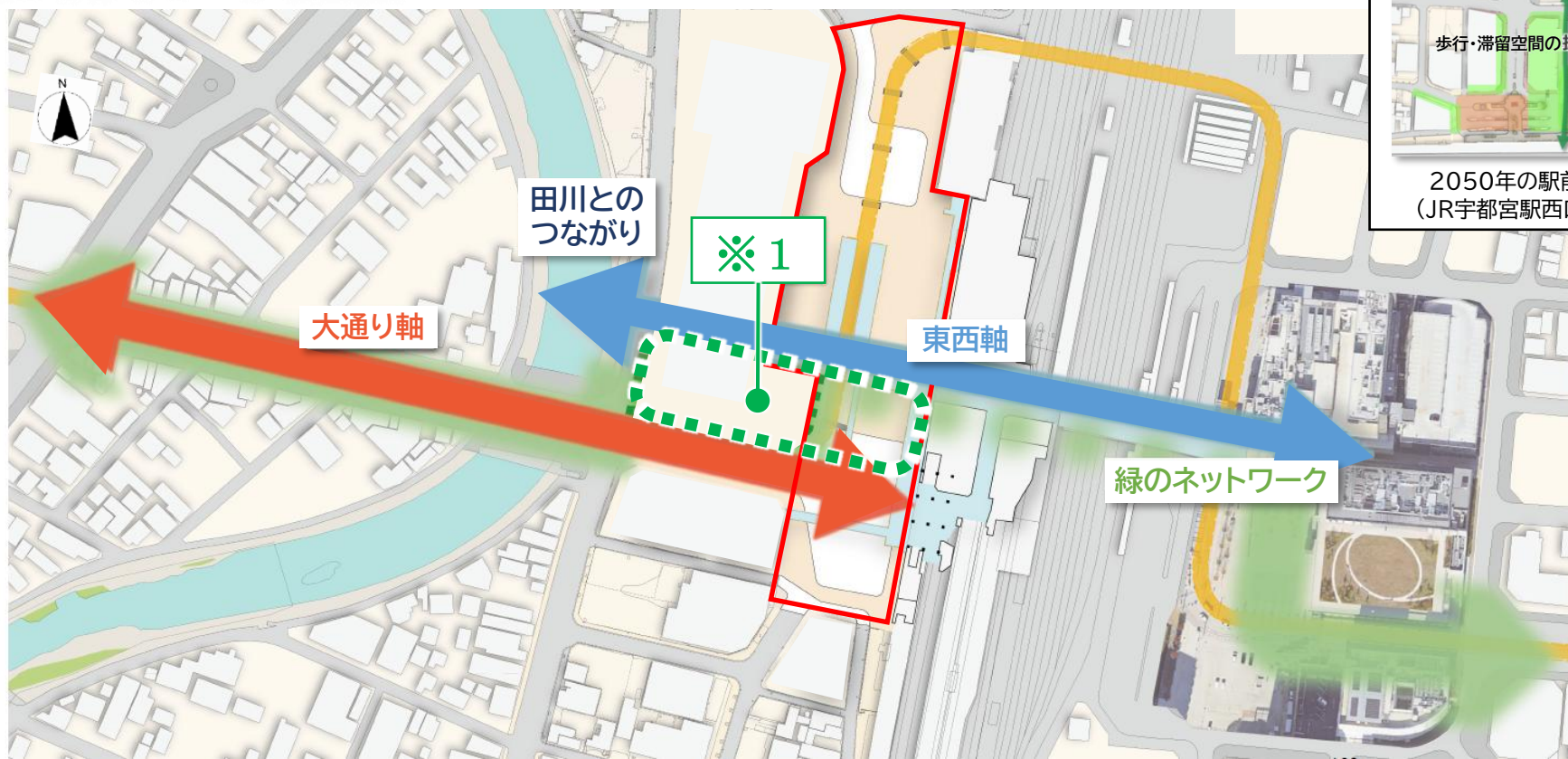


1 空間デザインの検討状況について

(3) 2050年代の駅前広場（新たな広場空間）

- 整備基本計画では、2050年代の都市構造や目指す地区の将来像の実現に向けた2030年代（ライトライン開業時）の駅前広場の整備方針を定めている。
- この方針を踏まえながら、特に重要となる下記のエリア（※1）においては、以下の空間づくりの視点に配慮しながら、官民の垣根を超えて互いに空間を共有し、駅とまちが一体となったウォーカブルな空間形成を目指す。

- ① 駅東西をつなぐ**東西軸**と、駅と中心市街地をつなぐ**大通り軸**を結び、駅周辺の回遊性・滞在性を強化する場所
- ② 駅と**田川**を結ぶ、宇都宮にしかない景観資源を活かした駅前空間を作る場所
- ③ 東西を結ぶ**緑のネットワーク**を形成



1 空間デザインの検討状況について

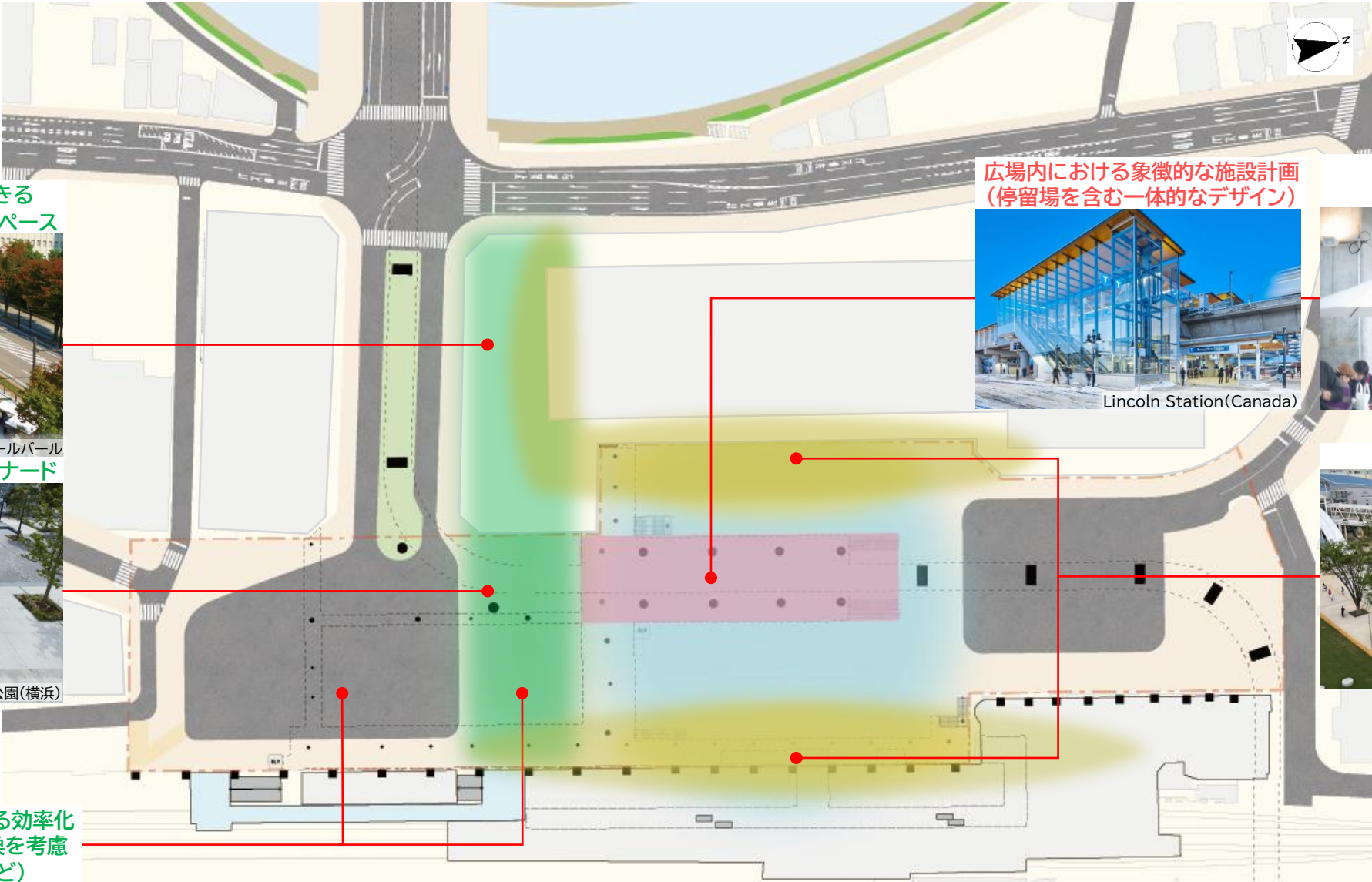
(3) 2050年代の駅前広場

・広場空間の役割



1 空間デザインの検討状況について

(3) 2050年代の駅前広場（デザイン方針に基づく地上部の整備イメージ）



田川と一体的な利用ができる
まとまりをもったオープンスペース

富山市プールパルク

大通りへつないでいくプロムナード

グランモール公園(横浜)

広場内における象徴的な施設計画
(停留場を含む一体的なデザイン)

Lincoln Station(Canada)

広場が一体となる工夫
(高架下利用も検討)

ののみち(東京・武蔵野市)

商業と連携した滞留空間

流山おおたかの森駅前

※ 将来の交通空間のさらなる効率化
による人中心の空間への転換を考慮
(自動運転技術の進展など)

事業計画のとりまとめ

- 一体となって整備を進めていくライトライン事業と調整を図りながら、整備工事の着手に向けて、駅前広場の空間デザインや平面図、工事の進め方などの事業計画をとりまとめていく。
- 本事業を円滑かつ着実に推進していくため、検討状況を段階的に公表するとともに、オープンハウスの実施など事業に対する市民理解の促進を図りながら取り組んでいく。
- 適宜、懇談会を開催し、関係者の意見を伺いながらとりまとめを行う。

